海外旅行特集

今年の夏こそ行きたい

大学生活は人生の夏休みとよく言われる。高校生のように部活や勉強で忙しいわけではなく、社会人のように仕事に追われることもない。そんな「人生の夏休み」の夏休みである。これを逃さない手はない。そこで、今回は海外旅行特集をする。巨大なコンクリートジャングルを抜け出し、溢れ出る解放感を得ることができるだろう。それにあたり今回は株式会社エイチ・アイ・エス（H・I・S）に取材を行い、飯田橋営業所の小島彩（こじまあや）さんに貴重な話を伺った。（小島さんは学生時代から海外を飛び回っていたそうである）

ハワイ

夏といえばハワイを思い浮かべるだろう。ハワイの海といえばワイキキビーチが有名だ。しかし有名すぎて観光客が多いため、ハナウマ湾をおすすめしたい。海の透明度が非常に高く、有名なシュノーケリングスポットであり、魚だけではなくウミガメも見ることができる。さらには、天国の海と呼ばれるサンドバーという選択肢もある。

しかし、海だけがハワイの観光スポットなのだろうか。実はそうではない。海だけではなくジュラシックパークのロケ地にもなったクアロア・ランチなども挙げることができる。壮大な山並みの下に広がる草原で、バギーや乗馬などをして、日ごろの疲れを癒していただきたい。

世界で一番高い山がエベレストであることは小学生でも知っているだろう。しかし実は、海底を始点としたとき、マナウケア山は世界一高い山なのだ。さらにハワイは赤道付近に位置することから、マナウケアの星空はあまりにも美しく「宇宙に一番近い場所」と言われている。ハワイに行くならこれを見逃すわけにはいかないだろう。

▲グアムの美しい街並み

▲ハワイの美しい海

グアム

近場で安価な海外旅行にアメリカ合衆国のグアムがある。飛行機で約三時間で行ける距離でありながら、きれいな南国のビーチや、マリンスポーツが楽しめる人気観光スポットである。年間を通して平均気温が27度と過ごしやすい気候で、Tシャツと短パンで過ごせる。そんなリゾート地であるグアムではマリンスポーツをおすすめしたい。透明度の高い海でのシュノーケリング、ボートに乗ってのイルカウォッチングは、日本ではなかなか経験できない。イルカや雄大な海、海中の風景を見れば、心を動かされるに違いない。

グアム本島からフェリーで行けるテニアン島は、グアム本島より一層、透明度の高い海が望める。そこでは、ウミガメダイビングツアーなども体験でき、高確率でウミガメと出会える。初心者の人でも楽しめるツアーもあるので、ぜひこの機会にダイビング初心者の方も挑戦してみてはいかがだろうか。テニアン島は信号が一つもない小さい島であるが、太平洋戦争の時、アメリカ軍と日本軍の凄惨な衝突があった島としても有名である。その戦いの痕跡が島の随所に残っている。島の所々に日本語が散見されるが、この島はアメリカが進軍してくる以前は、日本が占領していた島で、日本人が数多く住んでいた。戦争の凄まじさが残されているようなこの島を散策するのも貴重な経験になると思う。もちろん今は戦時中の雰囲気は払拭され、楽しい観光スポットになっているがその時代のことに目を向けるのも深い思い出になるのではないだろうか。

バリ

インドネシアに属するバリ島は平均気温が24度で、月によってあまり乱高下しない穏やかな気候であり、エキゾチックな雰囲気の漂う神々の島ともよばれる神秘的な島である。乾季（4月～9月）、雨季（10月～3月）と二つの気候に分かれる。観光するのなら乾季の方がおすすめであるが、雨季でも多くて一日2～3時間ほど雨が降る程度であるので雨季に訪れても問題はないだろう。バリ島には昔、古代王朝があったことから観光スポットが多くある。インドネシアはヒンドゥー文化であるので数多くの寺院がある。なかでもおすすめなのは断崖絶壁70mのところにそびえ立つウルワトゥ寺院だ。そこで見える夕陽は格別である。日の入りの時間には多くの人で賑わうので、良い位置で夕陽を見るためには早めに訪れることをおすすめする。また、島内では昔から稲作が盛んに行われており、斜面に段々に田んぼをつくっていく棚田製法で生産をしているライステラスというものがある。これは、バリ島北部にあるテガラン村というところにあるものだ。日本の田園風景とは景観的に少し違っている。南国の風景と日本の田園風景をミックスした、奇妙だが思わずうっとりしてしまいそうな景観であるので、ぜひ一度足を向けていただきたい。このような観光スポットを楽しんでいただいた後は、女子必見のウヴド市場に訪れてみてはいかがだろうか。昨今、エキゾチック風な雑貨などが話題となっていると聞く。ウヴド市場にはそのようなエキゾチックな服や雑貨を出すお店が集まる。また、バリ島では早朝に買い物をする方が多いためその時間帯にマーケットは賑わうことが多い。少し早起きして、朝市の光景を見に行くのも一興かもしれない。

海外旅行はいかがですか？

今回、海外旅行について本学の経営学部経営学科3年の後藤駿典（ごとうしゅんすけ）さんに話を伺った。後藤さんは、本学に入学してから現在までに18の国と地域へ旅行に行っている、かなりの海外旅行通である。学生が時間に余裕のある夏休みや春休みなどの長期休暇を使って様々な国へ行っているそうだ。今回は主に、後藤さんが今までに行ったことのある場所でもう一度行きたいと思った場所、海外旅行に行くにあたり必要なこと、海外旅行に行くことにより得られるものについて伺ってみた。

後藤さんが行ったことのある多くの国の中で、特にもう一度行きたいと思った国はカンボジアだそうだ。カンボジアといえば多くの人はアンコールワットを連想するだろう。アンコールワットはカンボジアの国旗にも描かれており、大伽藍（おおがらん）と美しい彫刻を特徴とするクメール建築の傑作とされているヒンドゥー教の寺院であり、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている。アンコールワットは朝日が昇る時間帯や夕日が沈む時間帯は、かなりきれいな風景を眺めることができる。また、アンコールワットのあるシェムリアップという街のナイトマーケットがおすすめだそうだ。そこでは、日本では決して食べることはないようなサソリなどの下手物系の料理が頼め、学生でも楽しむことができる。更にカンボジアは物価が安いために、お金のない大学生でも十分にカンボジアを満喫できるようだ。

海外旅行に行く際に、最も注意しなければならないことは安全面だ。日本ほど安全が確約されている国はないので海外に行くときは普段以上の危機意識を持つことが大切である。後藤さんは何も盗まれたことはないそうだが、後藤さんの友人にはスマートフォンやデジタルカメラを盗まれたという人は何人かいるそうだ。また、後藤さんが海外に行くときに必ず持っていくというものが、海外でも使えるWi-Fiルーターだ。これは、空港で借りていくことができ、現地での通信に困ることがなくなるそうだ。そして、もうひとつ重要なものは英語力である。観光客の多い空港やホテル、有名な観光スポットでは、多くの場合は英語が通じる。ここで、後藤さんが実際に体験して困ってしまったというエピソードを紹介する。とある国を訪れていたとき、一緒にいた友人が病気にかかってしまった。病院に連れて行ったものの、日本語など当然通じるはずもなく、全て英語で説明され、改めて英語の大切さを知ったとのことだ。とはいえ、たとえ言葉が通じなくても、ジェスチャーなどを使って相手に伝わるように努力することは大切である。会話をする意思を見せれば、相手もそれに応じてくれるそうだ。

海外旅行に行くことによって得られることは多くある。様々な国を訪れることで、その国の歴史について深く知ることができれば、その国の人々の考え方が分かるようになるかもしれない。現在、私たちの考え方や価値観だけでなく、他の国に住んでいる人の考え方や価値観を知ることができれば自分自身の視野も大きく広がることだろう。今後、社会に出たときに外国の方々と一緒に作業をしなければならない場面にも多く出くわすことになるはずだ。その時に海外旅行に行ったことの経験があれば、自分たちと違う価値観を持つ人と接することも困難ではないと感じられるのではないだろうか。課題やレポートに追われている本学生のみなさん、今年の夏は海外へ旅行に行って気分転換をするとともに、自分の知っている世界を大きく広げてみてはいかがだろうか。

バイト特集

学生生活において、学業はもちろんサークル活動やバイトに励む学生も多いのではないだろうか。また、これからバイトを始めようと考えている学生もいるだろう。バイトといっても職種や時給、そこから得られるスキルも多種多様である。事実、バイト求人情報サイトで検索してみると膨大な検索結果が表示され、どのようにバイトを選べばよいか困惑してしまう。そこで、株式会社マイナビのアルバイト情報事業担当の大上愛（おおうえあい）さんに協力していただき、学生向けのバイトについて特集する。

学生がしているバイトとして多いのは飲食・フード系、イベント・キャンペーン系、販売・接客・サービス系が挙げられ、週三日程度で働く学生が多いそうだ。学業やサークルとの両立を考え、無理なく続けられる条件を希望する傾向にある。また、学生のうちにしかできないバイトとしてリゾートバイトが挙げられる。大学生の夏休みや春休みはとても長く、自由な時間が多くある。この特権を利用して楽しみながらできるバイトなので、友人と経験してみてはいかがだろう。ではバイトから得られるスキルはどのようなものがあるだろうか。職種や業界によって、特有の知識や技術などの専門スキルを得られる。また、接客業のバイトを経験すれば初対面の人とのコミュニケーション力を学ぶことができるだろう。しかし、元気が売りの居酒屋スタッフと富裕層を対象にした高級ブランドの販売員では、コミュニケーションの方法も変わってくる。自分がどのようなスキルを身につけたいかによって、選ぶバイトの幅も広がり、逆に絞り込むこともできるのでバイトをしてどんな自分になりたいのか想像してみることも大切である。どのバイトをしても単純に作業をこなすのではなく、どのような学びを得て、次に活かすのかを常に考えて臨むことで、バイトの経験やスキルが就職をする上で活かされてくる。「新しいバイトにチャレンジすることは希望や楽しみがある反面、不安もあるでしょう。そのバイトが自分に合っているか、一度そのお店に行って雰囲気を確かめるのも一つの方法です。また、バイトを探す上で雇用条件のマッチは必須ですので面談時に企業と自分の希望条件がマッチしているか確認するようにすると良いでしょう」と語った。また、今回特集しきれない内容については以下のリンク先を参考にしてもらいたい。（http://baito.mynavi.jp/kodawari/daigakusei/）

学生のみなさんが今経験している、そしてこれから経験するバイトで少しでも学生生活を豊かにし自分自身の糧となるスキルを身につけてほしい。その力が今後の自分の人生に活かされるときがきっとくるだろう。